

小笠原空港の 建設地が時雨山 周辺域に決定！

村民だより

No. 402

平成10年5月19日
東京都小笠原村役場
小笠原村父島字西町
電話 2-3111

臨時特集号

本日(5月19日)、東京都は多摩島しょ振興推進本部会議において、「小笠原空港の建設地を父島の時雨山周辺域とする」との正式決定をされました。

なお、村ではこの決定を受け、東京都をはじめ関係機関に対し第7次空港整備七箇年計画の中で一日も早く空港建設に着手するよう、代表者による陳情活動を5月末に予定しております。

以下、本日の決定の内容を原文のまま掲載します。

〔 空港に関するお問い合わせ・ご質問は、小笠原空港建設推進本部へ
(小笠原村企画財政課) Tel 2-3112 〕

小笠原空港の建設について

平成10年5月19日
東京都

小笠原空港は、真に小笠原諸島が自立発展するため、欠くことのできない基幹施設であり、小笠原村民にとって、返還以来の悲願となっている。

平成7年2月、東京都は、小笠原空港の設置位置を兄島に決定したが、自然環境の面から見直すように指摘があった。

そこで、まず自然環境の面から、兄島以外での空港建設の可能性のある地域を検討するため、小笠原空港環境現況調査を実施した。

この調査結果を踏まえ、運航の安全性・安定性、経済性等の面も加え総合的に検討して小笠原空港候補地を選定するため、「小笠原空港建設等専門委員会」を設置し、専門的観点からの提言を得たところである。

今回、この提言を受けて平成10年4月7日、「多摩島しょ振興推進本部会議」において決定された都の考え方を基に、地元小笠原及び関係省庁の意見等を踏まえて、小笠原空港の建設地等について、下記のとおり決定する。

(裏面へ続く)

記

1 小笠原空港整備についての基本的考え方

- (1) 小笠原諸島は、日本では数少ない亜熱帯の海洋島であることから自然環境に最大限配慮する。
- (2) 本土から遠く離れた外界孤島という厳しい地理的条件を有していることから運航の安全性・安定性を確保する。
- (3) 空港設置位置、規模等の検討に当たっては、建設経費にも配慮するとともに、運航形態は民間定期航空会社の運営とし、就航機材は他の路線との汎用性のあるものとするなど経済性を考慮する。

2 小笠原空港の建設地

小笠原空港の建設地については、平成7年2月、兄島に決定していたが、本決定をもって、父島の時雨山周辺域とする。

父島の時雨山周辺域とする主な理由は、次のとおりである。

- (1) 自然環境面での小笠原空港環境現況調査において、空港立地の可能性がある地域とされている。
- (2) 滑走路方位は、ほぼ東西に位置しており、風向等の点で運航の安全性が優れている。
- (3) 建設経費は、他の候補地と比べて比較的少ない。
- (4) 小笠原諸島の中心である父島内にあり、住民にとってアクセスが容易である。

なお、小笠原村議会及び村内の各種団体で構成する「小笠原空港建設期成同盟」も、小笠原空港の建設地を父島の時雨山周辺域とすることを、全面的に支持している。

3 就航機材等

小型ジェット旅客機とし、羽田空港からの直行便とする。

4 空港の規模

滑走路等については、過走帯等を含め合計1,720mの長さを基本とし、その他、航空機の安全かつ安定した運航が確保できるよう、航空保安施設等の設置を計画する。

5 建設経費

用地費を除き、約650億円と見込まれる。

費用負担については、関係省庁と調整する。

6 自然環境の保全策

- (1) 小笠原諸島は、我が国にあって極めて希有な自然環境を有していることから、自然環境の保全策を積極的に推進する。

特に、小笠原固有種で絶滅が危惧されるムニンツツジについては、保護増殖対策を強力に行うなど、その保全に万全を期する。

- (2) 環境アセスメントの実施に当たっては、調査項目等について関係省庁と十分に調整し、天然記念物などの希少動植物種にも配慮した調査を行う。
- (3) 空港建設に当たっては、環境アセスメントの結果を踏まえ、貴重な動植物及び景観への影響が極力少なくなるよう、きめ細かな工事手法を採用していく。

7 今後の予定

本決定を基に、小笠原空港の早期開設に向けて、今後とも、関係省庁及び小笠原村等と調整していく。